



四国電力からのお知らせ (ダム・取水堰の放流について)



今年も出水期に入り、集中豪雨や台風の発生するシーズンとなりました。

四万十川上流の津賀ダム(古味野々ダム)および佐賀取水堰(家地川えん堤)では、これらの出水に備え、設備の点検・整備を行い、事故の未然防止に努めています。

ダム・取水堰から放流する際、警報車およびサイレンでお知らせしていますので、放送などを聞いた時は、

●特にお子様が川の方へ行っていないか

●舟や荷物などは大丈夫か

今一度確認を行って、水による事故や災害の防止に十分ご留意ください。

また、沈下橋は、特に安全を確認してからご通行ください。周知および警報は、次のように行っています。

【お問い合わせ先】
四国電力株式会社 津賀ダム管理事務所 ☎27-5314
佐賀取水堰管理事務所 ☎22-0069

①警報車による周知

ダム・取水堰からの放流を開始する約30分前にダム・取水堰を出て、下流に向かって順次お知らせします。

②サイレンによる警報

(1)ダム・取水堰からの放流を開始する30分前に一号サイレンの吹鳴を始め、以下順次吹鳴します。

(2)津賀ダムからの流入量が、毎秒「770トン」および「3870トン」になった時もサイレンを吹鳴します。

(3)ダムからの放流量が著しく増加すると予想された時もサイレンを吹鳴します。

サイレンの吹鳴方法

1分間吹鳴 15秒休止 1分間吹鳴

ダム放流量などの情報は、下記の電話番号で放送しておりますのでご利用ください。

☎0120-27-5430

〈アナウンスの内容〉

・津賀ダム放流量 ・佐賀取水堰放流量 ・昭和測水所水位

見守り新鮮情報

「仮想通貨を買わないか」と電話があり、数日後に説明書が届いた。後日、再び同じ業者から電話があり「今、100万円分の仮想通貨を買えば2～3年後には2倍になる」と言われた。その話を信じて購入することにし、近くの喫茶店で担当者に現金100万円を渡した。その後しばらくは、

仮想通貨の値動きらしき数字の連絡が業者からあったが、

最近、業者に電話をかけてもつながらなくなった。

(70歳代 女性)

仮想通貨への投資リスクを理解できなければ契約しないで！



ひとこと助言

理解できない契約をしない



- インターネットを通じて電子的に取引される「仮想通貨」への投資に関して、電話や訪問による勧誘トラブルが高齢者を中心に増加しています。
- 仮想通貨は、取引相場の価格変動リスクを伴うため、将来必ず値上がりするというものではありません。セールストークをうのみにせず、リスクを十分に理解できなければ、契約しないでください。
- いったん電話に出ると切りにくくなります。留守番電話機能などを利用して、かかってきた電話は出ずに、必要な相手にだけかけ直す方法も有効です。

消費者ホットライン 188

日本全国のお近くの消費生活相談窓口をご案内します。

第55回 家庭内備蓄②

マモルと博士の防災教室

みなさん、こんにちは。「防災マモル」です。今日も一緒に防災について考えてみよう！



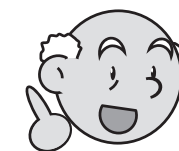
防災マモル



博士

マモルくん、アレルギー対策用の備蓄食料があるのは知っておるか？

知ってるよ！僕の妹が卵アレルギーを持っているから、妹が食べる分の備蓄は分けて用意しているよ。アレルギー用の食料はなかなか手に入りにくいと聞いたから、用意したんだ。



マモルくんの言う通り、自宅ですっかり用意しておくことが大切なんじゃ。東日本大震災の時も、市役所にアレルギー対策用の食料は備蓄されていなかったため、食料が手に入らず、県外に避難しなければならなかった人もいたのじゃ。

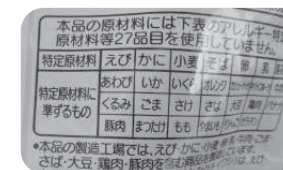


食べて体調を崩してしまっは、元も子もないね。

そうなのじゃ！震災を乗り越えて助かった大切な命をつなぐためにも、家族や自分のアレルギー用食料を備蓄しておくことは、とても重要なのじゃ。



アレルギー対策用の備蓄食料って、裏を見ると表示があるからすぐにわかるよ！備蓄している食料がアレルギー対策用なのかからなくても、すぐに確認できるね。

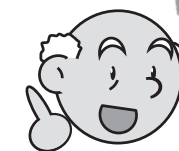


アレルギー対策用のものは普通の人も食べられるから、多めに買って置くとか安心じゃの。もし、大丈夫と思っていてアレルギーが起こってはいけなから、必ず1回以上食べておくことが大切じゃ！また、食料だけでなく、薬についても、アレルギー対策が必要なのじゃ！



お薬手帳には
・処方されたお薬の名前
・飲む量、回数
・アレルギー歴
が、記載されています

家族が離れ離れになったら、僕の妹は自分でアレルギーを説明できないかもしれないから。妹のおくすり手帳は妹が持つておくようにしなきゃならないね。



それと、周りの大人が気にかけてあげることも大切じゃの。

【お問い合わせ先】危機管理課 ☎22-3280 来月も2人と一緒に、防災について学んでみよう！